

高知県内の直轄国道の歩道トンネル

高知県内の直轄国道には、国道 33 号の赤土歩道トンネル及び佐川歩道トンネル、国道 55 号の手結山歩道トンネルの 3 つの歩道トンネルがあります。これらの歩道トンネルにはそれぞれ平行して昭和 30 年代から 50 年代にかけてトンネルが建設されていましたが、自動車交通量の増加に伴いトンネル内の歩行者や自転車の通行が危険となり、新たに歩道トンネルが整備されました。3 つの歩道トンネル整備の概要は以下のとおりです。

①国道 33 号赤土トンネルと赤土歩道トンネル（佐川町）

国道 33 号の佐川町と越知町を結ぶ赤土トンネル（延長 365m）は昭和 33 年に完成しましたが、幅員が 7m と狭く歩道がなく、自動車交通量の増加や通勤・通学の歩行者・自転車の増加に伴い、交通事故の危険性が高まってきました。このため、地域住民や関係機関からの要望に応じて、建設省は昭和 56 年度より歩道トンネル工事に着手し、昭和 58 年 3 月に赤土歩道トンネル（延長 535m、幅員 2m）が開通しました。これは高知県内で最初の歩道トンネルです。

②国道 33 号佐川トンネルと佐川歩道トンネル（佐川町）

国道 33 号佐川トンネル（延長 230m）は、佐川町の人家連担部を避けるために建設された佐川バイパスの一部として昭和 49 年に開通しました。佐川トンネルは歩道幅が 75cm と狭く、自動車交通量の増加に伴い、歩行者や自転車が車両と接触しそうになるなど危険な状況になってきました。このため、国土交通省は平成 24 年度から歩道トンネル工事に着手し、平成 26 年 12 月に佐川歩道トンネル（延長 322m、幅員 4m）が開通しました。

③国道 55 号手結山トンネルと手結山歩道トンネル（香南市）

二級国道高知徳島線の手結山トンネルは昭和 33 年に完成しましたが、幅員が狭く歩道もないため、手結山地区ではトンネルを含めた道路の改良が要望されていました。この路線は昭和 40 年に建設省直轄の一般国道 55 号となり、建設省は昭和 46 年度から手結局部改良工事に着手し、昭和 53 年度から旧トンネルの海側に新手結トンネル（延長 193m）を施工し、昭和 54 年 12 月に供用しました。開通後は旧トンネルが上り車線、新トンネルが下り車線として利用されてきました。しかし、自動車交通量の増加に伴い歩行者・自転車の交通事故の危険性が高まってきたため、国土交通省は老朽化したうえ狭い旧手結山トンネルを補修して歩道トンネル（延長 200m）として再活用し、平成 20 年 3 月に供用しました。手結山歩道トンネルの名称は、夜須小学校の児童からのアイディアにより、350 年ほど前から夜須に伝わる花取り踊りにちなんで「花取り歩道トンネル」と名付けられました。

歩道トンネルは、限られた財源の中で、地域の要望に応じて歩行者や自転車の安全を守るためにつくられた、地域の人々と関わりが深い施設です。

<参考文献：国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所編「土佐国道事務所 40 年のあゆみ」2003 年、高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」1998 年、佐川町史編纂委員会編「佐川町史下巻」1981 年、越知町史編纂委員会編「越知町史」1984 年、土佐国道事務所記者発表資料など>



(地理院地図に加筆)